



- 写真左から；
- ・ 2021年版画展委員会賞 野嶋革「Leaves 02: homage to JS」
 - ・ 特別企画 「篠田桃紅とCWAJ」より、2013年版画展オープニングレセプションでの篠田桃紅氏
 - ・ 学生支援プロジェクトの寄贈作品販売

CWAJ現代版画展

第64回現代版画展 —可能性を模索して—

2020年に初めて試みたオンライン展の成功を受けて、2021年は当初、代官山ヒルサイドフォーラムとオンライン展の二本立てでの開催を予定していました。コロナ第5波の到来で会場での展示は中止となりましたが、両方の準備を進めていたおかげでスムーズにオンライン開催に絞ることができたのは幸いでした。

2021年は前年の経験をふまえて応募をオンラインでの受付とし、選考委員による選考をすべて画像データで行うことになりました。400点以上のデータを受け取って処理するのは大変でしたが、担当チームの持ち前のチャレンジ精神と経験豊かな選考委員のご協力により、デジタル画像による作品審査は滞りなく行われ、招待作品を含めた202点を展示・販売することができました。販売も好調で、売上げの約半分が海外からの注文でした。

第64回CWAJ現代版画展に加わったのは、2021年3月に107歳で逝去された篠田桃紅氏を偲ぶ特別企画『篠田桃紅とCWAJ』、およびコロナ禍で苦境にある学生のために招待作家からご寄贈いただいた小作品による、寄贈作品特別販売会です。日本を代表する芸術家、故篠田桃紅氏は、女性の自立と社会進出を推し進めてきたCWAJの真の理解者でもありました。

コロナ禍における学生支援プロジェクト： 寄贈作品特別販売会

コロナ禍で医療体制が逼迫する中、感染予防のためにアルバイトも禁じられ経済的困難に直面した看護学生を支援しようと、CWAJでは2020年に「看護学生奨学金」を立ち上げました。この奨学金を資金面で支えるために企画されたのが「寄贈作品特別販売会」です。



第64回CWAJ現代版画展の招待作家に呼びかけたところ、47名もの方が即座に賛同して、200点以上の小作品を快くご寄贈くださいました。オンライン販売のみという予想外の困難にもかかわらず、販売価格の大半が1万円ということもあって、小さくても完成された版画の美しさに多くのお客様が魅了され、

同奨学金2口分に当たる100万円を上回る資金を調達することができました。

当プロジェクトには、質の高い作品を低価格で提供することで多くのお客様を喜ばせ、版画作品を購入したことのない方にも第一歩になるようにという作家の皆様の願いも込められていました。その通りの結果となったことは感謝に堪えません。

1966年の初出品以来CWAJへの出品は50回を数え、節々でスピーチをお願いしたり特別展を開催したりと、多大なご支援をいただけてきました。今回の特別企画では、篠田氏とCWAJの交流を振り返る展示とご遺族の協力による作品の抽選販売を行ったほか、『篠田桃紅とCWAJ：篠田桃紅を偲んで』というビデオを制作して、CWAJへの想いやご自身の人生や作品についての率直なコメントを紹介しました。当版画展の歴史を知るうえでも貴重な資料となっています。

例年、版画展会場ではガイドツアーを行っています。オンライン展でも、出品作家の廣田雷風、市野悠、門馬英美、大森弘之、関野洋作、園山晴巳各氏に焦点を当て、それぞれ異なる版種の製作過程を日英両語のビデオに収めたYouTube『版画のマジック』を提供しました。動画はアーティストや会員によってSNSでも拡散されて反響を呼びました。



ビデオ「篠田桃紅とCWAJ：
篠田桃紅を偲んで」は
こちらのQRコードから



ビデオ「版画のマジック」
はこちらのQRコードから

CWAJ ヤング・プリントメーカー賞 (YPA)

CWAJ現代版画展50周年を迎えた2005年に、版画界への謝意と未来を担う若い版画家への期待をこめて、ヤング・プリントメーカー賞を創設しました。応募資格があるのは、前年に版画学会主催の全国大学版画展で受賞した学生で、毎年1名に賞金50万円を授与しています。受賞者にはその年のCWAJ版画展で作品を展示し、さらに3年後の版画展でも新作を発表する機会が与えられます。これまでの受賞者の多くが新進版画家として着実に歩を進めています。2021年の第64回CWAJ現代版画展オンラインギャラリーでは、下記の2名の作品を展示しました。

2021年YPA受賞者

大山 葵那

東京造形大学
(2021年3月卒業)

「あさ、よる、あさ」



2018年YPA受賞者

西村 涼

京都市立芸術大学大学院
(2020年卒業)

「私の中の欠片」



2021年CWAJ奨学金

2021-2022年のCWAJ奨学金は次の10名に支給しました。



奨学金プログラム～継続とイノベーション

奨学金支給はCWAJ活動の柱として長年続けられてきました。2021年度も創設から50年となる海外留学大学院女子奨学金（SA）や視覚障害学生奨学金（SVI）を支給するとともに、コロナ禍への対応として2020年に立ち上げたCWAJ看護学生支援プロジェクト（NS）が継続されました。1年休止した外国人留学生大学院女子奨学金（NJG）も再開し、40周年を迎えます。

感染予防の観点から選考は全てウェブ会議となりましたが、対面での話し合いができない不自由さの反面、海外在住の会員も選考に参加できるようになり、さらに広い視点から選考を進められるメリットがありました。また、昨年の夏からは応募受付のオンライン化に取り組み、2023年度には、ほとんどの奨学金がオンライン出願に移行する予定です。

CWAJの進取の気性は教育、環境、人道支援などの分野で国際協力の道に進んだ奨学生たちと共通しています。視覚に障害がありながらJICAパラグアイ事務所に出任中の福地健太郎（2011 SVI）、ボツワナでJICAと協力して活動した日本森林技術協会の高橋美佐紀（2018 SA）、UNICEF本部でアフガニスタンでの人道支援にあっている山田恵理（2018 SA）のように、多くの奨学生が世界を舞台に活躍しています。また嬉しいことに最近では、CWAJの精神を受け継いだ元奨学生が、奨学金で培った経験を社会に還元したいと正会員として入会することが増えています。



ヤング・アンバサダー募集！

このたびCWAJは28歳以下の入会希望者を対象に、ヤング・アンバサダーズというプロジェクトを開始しました。ヤング・アンバサダーは、個人のSNSにCWAJをタグ付けすることで、大学や一般のコミュニティにCWAJのジュニアメンバーシップ制度を広め、また個人のさまざまなネットワークを通じてCWAJの活動を宣伝していただくプログラムです。広報活動のリターンとして、履歴書にその活動を明記し、CWAJから活動に合わせた推薦状を受け取ることができるほか、CWAJジュニアメンバーの年会費5,000円を2,500円に減額いたします。

ヤング・アンバサダーは就活／キャリアプランニング中の皆さんの年代をターゲットとしています。奨学金とアートの分野で長年活動を続けてきた国際色豊かな団体、一般社団法人CWAJで、必ずや実り多い体験を重ねていただけることでしょう。CWAJヤング・アンバサダーにご興味のある方、ふさわしい方をご存じの方は、vicepresident@cwaj.org までご連絡ください。

CWAJ海外留学文化交流大学院女子奨学金（SA）

（この奨学金は国際交流基金の支援を受けています）

1名 支給額 300万円

曾根 麻里（そね まり）

ルーヴェン・カトリック大学（ベルギー王国）心理学 修士課程

CWAJ海外留学大学院女子奨学金（SA）

1名 支給額 300万円

末村 萌（すえむら もえ）

コロラド大学ボルダー校（米国）航空宇宙工学 修士課程

CWAJ視覚障害学生奨学金（SVI-SJ）

2名 支給額 各150万円

菅田 利佳（すがたり か）

東京大学教育学部3年

山田 翔登（やまだ しょうと）

同志社大学法学部法律学科4年

CWAJ看護学生奨学金（NS）

6名 支給額 各50万円

早川 明花（はやかわ めいか）

神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部看護学科3年

柿本 真尚（かきもと まなか）

国立看護大学校看護学部3年

小椋 玲美（こむく れみ）

埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科3年

松下 らむ（まつした らむ）

聖路加国際大学看護学部3年

大山 天良（おおやま たから）

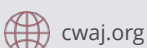
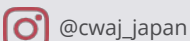
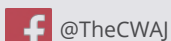
横浜市立大学医学部看護学科3年

山口 優（やまぐち ゆう）

国立看護大学校看護学部4年



CWAJとは



一般社団法人CWAJ（カレッジ・ウイメンズ・アソシエーション・オブ・ジャパン）は、「女性が女性を支える」という理念のもと、CWAJ奨学金、CWAJ現代版画展、視覚障害者や児童養護施設の子どものための英語教育など、さまざまなプログラムを通じて教育・文化の推進に努めている非営利ボランティア団体です。約25か国から集まった約400名の女性（LGBT+を含む）会員が、無償のボランティアとして幅広い交流の中で友情を深め、楽しみながら教育・文化活動を行っています。1972年に創設されたCWAJ奨学金は、国内外の女子大学院生・視覚障害男女学生などのべ約900名に支給され、各界のリーダーを育ててきました。また、2021年度からはコロナ禍への取り組みとしてCWAJ看護学生奨学金を立ち上げるなど、常に社会のニーズを見据えて活動しています。ボランティア活動は外国人と日本人がペアを組んで、原則として英語で行います。CWAJ入会についてのお問合せは membership@cwaj.org へどうぞ。



コミュニティ・プログラム

視覚障害者との交流会（VVI）

VVIは、視覚障害のある人たちに、英語と日本語による学びと楽しみの機会を提供しています。2021年も新型コロナウイルス感染症による影響を受けましたが、多くのプログラムやイベントを対面やオンラインで開催することができました。「英会話の集い(ECG)」は視覚障害のある参加者とCWAJ会員がリラックスした雰囲気の中で英語で話し合う催しです。今年度はオンラインで2度開催されました。オンライン開催の利点は、会場に來られない場所に住んでいる人々も自宅から参加できること、そして、海外から魅力的なスピーカーをお招きできることです。

3月のECGは春をテーマに開催され、ゲストスピーカーには、ワシントン在住のジャーナリスト、ダイアナ・パーセルさんと、NHKの語学番組に出演するなど多方面で活躍している日本在住のイラン人女性ナヒド・ヨシナリさんを招きました。12月のECGには、2008年のSVI国内奨学生で、東京パラ競泳に出場された石浦智美さんを迎え、本番を迎えるまでの日々や大会当日の様子についてお話を伺いました。

また、特別企画として7月に、八代目橋屋圓太郎師匠による「落語の会」をオンラインで行いました。視覚障害者20名・CWAJ会員65名が参加し、落語「厩火事」を楽しんだ後、圓太郎師匠を交えて英語で落語の世界を深めるひと時を持ちました。VVIは教育に関わるミッションとして、日本視覚障害者職能開発センターで英語の授業を行っています。これは、成人の視覚障害者が就業に役立つ英語力を身につけるためのもので、感染症が落ち着いた4月から5月と10月から1月まで対面で授業を行うことができました。また、筑波大学附属視覚特別支援学校高等部の生徒が英検試験に備えるための模擬インタビューをオンラインで実施したり、CWAJの活動を紹介する会報を発行し、電子媒体と点字で視覚障害者に届けました。

外国人留学生との交流会（FSC）

FSCは、2020年11月以来、オンラインで「プレゼンテーション・アンド・トーク」を実施しています。FSCの留学生、元FSCの留学生が自分の国を紹介する催しです。2021年のプレゼンテーション・アンド・トークは日本ばかりでなく、海外からの出席者やプレゼンターもありました。また、海外ですでに仕事についたり、大学で研究を続けたりしている元FSCの留学生とオンラインで交流する良い機会となりました。またFSCのメンターによる、留学生のための少人数のプログラムも企画され、夏には歌舞伎鑑賞、秋にはウォーキングのプログラムを実施しました。

子供のための英語支援の会（EOC）

CWAJは子どものための英語教育を長きにわたり続けてきました。当初は海外から帰国した日本人児童が英語力を保つための教室を主催していましたが、2018年からは「楽しく英語を」の目標のもと、養護施設、特に西東京市の聖ヨゼフホームに暮らす子ども達への英語指導に取り組んでいます。これは子ども達の将来に貢献する活動だと確信しています。

残念ながら現在は直接訪問の活動は休止状態ですが、定期的にクリスマスやイースター、バレンタインデー等の行事にあわせて、外で自由に遊べない子ども達に英語の本やギフト、ゲーム等を送っています。これで以前に覚えた英語の言葉を思い出してくれればと願っています。12月と1月にはEOCのボランティアが数人集まり、プレゼントの袋詰めをしました。再び子ども達と英語で遊べる日を待ち望んでいます。

カルチュラル・プログラム

月例会プログラム

2020年春から導入されたバーチャル方式は、予想を超えた広がりを見せています。遠方から講師を招くことが可能となり、プログラムの内容も大きく広がりました。1月はジェンダー研究の第一人者として知られる上野千鶴子氏が日本のジェンダーギャップを解説、2月は自らも車椅子ユーザーであるマーク・ブクマン氏が日本の障害者向けアクセシビリティについて講演し、3月は梅若マドレーヌ氏と長女のソラヤ氏が日本の能の世界を紹介しました。4月はフィナンシャル・タイムズ紙東京支局長のロビン・ハーディング氏がソーシャルメディアの進展で新聞が直面している課題について講演、6月は、アリス・ゴードンカー氏が「ステイグマか芸術か」というタイトルで、日本の刺青について再考する機会を与えてくれました。9月はテキスタイルデザイナーの須藤玲子氏と建築家・著述家のナオミ・ボロック氏が日本と米国から二元講演、10月は版画家の吉田亜世美氏による木版の解説、11月には、デービッド・アトキンソン氏が、日本の寺院や国宝の修復作業を行う会社の外国人社長としての視点から日本の文化政策を語りました。

会員の参加者数は常に100名を超え、従来の対面の月例会の平均参加者数を大きく上回りました。会員の参加も増えて、会員間の交流の場としても重要性を増しています。バーチャルの講演会シリーズは内外に好評でしたが、12月に日本外国特派員協会で開催されたハイブリッド月例会では、華やかなサンバのダンスを間近に見る機会を得て、対面で集うことの喜びを実感することができました。CWAJのオンライン講演会とはなっても参加できますが、任意でご寄付をお願いしています。



写真上はスピーカーの上野千鶴子氏、アリス・ゴードンカー氏、写真下はサンバダンサーのマーク・ブクマン氏、原田由美子氏、森千里氏の皆さん

